
【smart.VPS 利用者マニュアル】

Ver.1.01 2022 年 10 月 5 日

改訂履歴

版	改訂内容	改訂日	備考
Ver.1.0	初版発行	2022/8/30	
Ver.1.01	3.2. Webmin に説明追加	2022/10/5	Webmin ユーザについて

目 次

1.	はじめに.....	1
1.1.	サービスの特徴	1
1.2.	サービスご利用上の注意	1
2.	最初に行っていただくこと	3
2.1.	設定完了通知書の内容確認	3
2.2.	ログイン確認	3
2.3.	ファイアウォール動作確認.....	3
2.4.	root パスワードの変更.....	3
3.	設定・管理ツールについて	4
3.1.	ssh.....	4
3.2.	Webmin.....	5
4.	サーバの設定概要	6
4.1.	設定一覧	6
5.	FTP について.....	8
5.1.	標準設定内容とユーザ変更・追加方法.....	8
6.	サーバ証明書について.....	9
6.1.	証明書一覧	9
6.2.	証明書の自動更新	9

1. はじめに

本書は smart.VPS サービスのご利用上の重要事項を記載したものです。ご利用にあたり必ず目を通しておいってください。

1.1. サービスの特徴

本サービスは、お客様に専用の仮想サーバをお貸しし、お客様自身がサーバを管理・運用しながら使っていただくサービスです。お客様はサーバの OS 管理者権限を持ち、ソフトウェアの変更やチューニングなどを自由に行うことができます。

1.2. サービスご利用上の注意

- root 権限

お客様には root アカウントをお渡しします。お客様は OS の管理者として、ご自身の目的にあわせ、ユーザアカウントの管理(root パスワード変更を含む)やソフトウェアの追加インストールやアップデート、アンインストールを行うことができます。サーバお引渡し後は OS やソフトウェアの管理責任は全てお客様となり、動作について弊社サポート範囲外となりますので、あらかじめご了承ください。

- ネットワークについて

サーバは、高速の共用回線を通してインターネットへ接続しています。無駄なトラフィックが発生するようなプログラムやコンテンツの設置はおやめください。また SPAM メールをはじめとした迷惑メールが送信されている旨、他業者様やプロバイダより警告があった場合は、無条件にネットワーク接続を切断あるいはサーバをシャットダウンする場合があります。

- ハードウェアメンテナンス

ハードウェア及び仮想ホストサーバの保守管理は、弊社にて行っております。ハードウェアや仮想ホストサーバのメンテナンス時は、一時的にサービスを停止させていただきます。その際は、1 か月前迄にアナウンスをいたします。ただし緊急時はこの限りではありません。

- バックアップについて

バックアップサービスをお申込みいただいたお客様には、サービス仕様に従ったバックアップ及び復元サービスを提供します。ただしデータの完全性を保証するものではありませんので、必要に応じてお客様ご自身でデータ保管作業を行ってください。

バックアップサービスをお申込みされていないお客様につきましては、必ずお客様ご自身でデータ保管作業を行ってください。万一物理的障害によりデータが消失してしまった場合、弊社では復元や保証等はありません。

- サーバ監視について

弊社では、ハードウェア及び仮想化ホストサーバの監視は行いますが、ゲストサーバの監視(死活監視やサービス稼働監視)は行いません。

2. 最初に行っていただくこと

サーバのご利用開始時に、以下の事項を行っていただくようお願いします。

2.1. 設定完了通知書の内容確認

契約情報、サーバ情報の各記載内容のご確認をお願いします。万一申し込み内容と異なっている場合やご不明点がある場合は、申込窓口までご連絡ください。

2.2. ログイン確認

次章 3.設定・管理ツール等を使用してサーバへログインできることをご確認ください。
ユーザ ID/パスワードや接続先の IP アドレス等は、設定完了通知書の管理者情報及びサーバ情報欄に記載しています。操作要領は以下です。

- ssh 接続

既定の設定として root での ssh 接続は禁止としています。ログイン確認はまず「ssh 接続ユーザ」として記載しているユーザにて ssh 接続し、その後 root にスイッチします。

- Webmin

Webmin については root でログインを確認します。

2.3. ファイアウォール動作確認

本サービスではセキュリティ向上のため、サーバ引渡し前にお客様に連絡し、サーバの管理用ポートにアクセスできる IP アドレスをお客様やお客様の関係会社様等に制限しています。これはサーバの firewalld サービス及び上位ファイアウォール機器で行っています。

(firewalld サービスの設定内容は、4.1.設定一覧の No.1 項を参照)

お客様は事前にご連絡いただいた拠点全てについて、該当拠点からのログイン確認を試行し、問題がないことをご確認ください。

2.4. root パスワードの変更

root パスワードは引渡し後速やかにお客様自身が決定するものに変更をお願いいたします。

パスワード変更は root 権限にて passwd コマンドまたは Webmin のシステムメニューユーザとグループで行います。

3. 設定・管理ツールについて

お渡ししたサーバの内容確認、設定・管理は以下ツールで行っていただきます。

3.1. ssh

サーバに ssh 接続し、コマンドラインを使用することで OS やソフトウェア全ての管理を行うことができます。

- 接続情報

プロトコル: SSH2

接続先: 設定完了通知書のサーバ情報 (IP アドレス、またはホスト名・ドメイン名)

接続アカウント/パスワード: 設定完了通知書の管理者情報のユーザ ID/パスワード

- 端末エミュレータ (ターミナルソフト)

Tera Term、PuTTY、Poderosa、Rlogin、Windows 標準 ssh (openssh) 等をご利用ください。

3.2. Webmin

GUI で OS の管理やオープンソースソフトウェアのインストール、変更、設定、参照等を行うことができます。

- 接続方法

ブラウザにて以下 URL にアクセスします。

URL: [https://{サーバ名\(FQDN\)またはIPアドレス}:10000/](https://{サーバ名(FQDN)またはIPアドレス}:10000/)

設定完了通知書のサーバ情報、Webmin の URL

設定完了通知書の管理者情報に記載の root ユーザとパスワードでログインします。

The image shows the Webmin login interface. At the top is the Webmin logo and the text 'Webmin'. Below this, it says 'サーバーにログインするには、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります 210.171.202.111'. There are two input fields: 'Username' and 'Password'. Below the 'Password' field is a checkbox labeled 'ログインを保存'. At the bottom is a blue button with a right arrow icon and the text 'サインイン'.

- Webmin ユーザについて

Webmin は root ユーザでなくても root 権限の必要なサーバ設定、例えば Web、メール、データベース等の設定やファイル転送等を行えるツールです。

Webmin の利用には Webmin ユーザの登録が必要です。既定では root ユーザのみ登録されています。追加が必要な場合は root で Webmin にログインし Webmin ユーザ作成メニューにてユーザ登録を行って下さい。

- 操作全般について

Webmin の操作については、以下マニュアル等をご参考に操作してください。

<https://www.webmin.com/docs.html>

4. サーバの設定概要

OS の主要な設定内容について記載します。

4.1. 設定一覧

No.	項目	内容・説明
1	ファイアウォール (firewalld)	初期設定は以下の状態です。 管理用アクセスについて接続元 IP 制限あり 例) お客様拠点 IP アドレス(範囲)が以下 2 つの場合 xxx.xxx.xxx.xxx/28、yyy.yyy.yyy.yyy/32 <pre># firewall-cmd -list-all public (active) target: DROP icmp-block-inversion: no interfaces: enp1s0 sources: services: http https imaps smtp smtp-submission smtps ports: protocols: forward: no masquerade: no forward-ports: source-ports: icmp-blocks: rich rules: rule family="ipv4" source address="xxx.xxx.xxx.xxx/28" accept rule family="ipv4" source address="yyy.yyy.yyy.yyy/32" accept</pre>
2	ssh 設定	ssh ポート: TCP/22 (デフォルト) root での ssh 接続禁止 su 可能ユーザは設定完了通知書の ssh 接続ユーザです
3	SELinux	無効 <pre># getenforce Disabled</pre>
4	ログ出力設定	firewalld について、REJECT、DROP したログを出力 <pre># firewall-cmd --get-log-denied unicast</pre> ログ出力先は、/var/log/firewalld に出力
5	ログローテーション 設定	週次ローテーション 12 世代管理、圧縮設定を基本としています。ただし個々のサービスの設定は OS インストール時の既定値につき、必要に応じて/etc/logrotate.d ディレクトリ下のサービス別の設定ファイルを編集してください。

6	IPv6 無効化	IPv6 は無効化しています
7	パッケージ自動更新	dnf 自動更新を有効にしています 既定の設定として、毎日 6:00～に更新されます。 (参考: 変更する場合は /usr/lib/systemd/system/dnf-automatic.timer の Timer セクション OnCalendar= を調整) カーネルアップデートは除外しています (/etc/dnf/dnf.conf exclude=kernel*)
8	起動サービス	<pre># systemctl list-unit-files -t service grep enabled atd.service auditd.service autovt@.service chronyd.service crond.service dbus-org.fedoraproject.FirewallD1.service dbus-org.freedesktop.nm-dispatcher.service dbus-org.freedesktop.timedate1.service dovecot.service firewalld.service getty@.service httpd.service import-state.service irqbalance.service kdump.service libstoragemgmt.service loadmodules.service lvm2-monitor.service mcelog.service mdmonitor.service microcode.service NetworkManager-dispatcher.service NetworkManager-wait-online.service NetworkManager.service nvme-fc-boot-connections.service opendkim.service postfix.service qemu-guest-agent.service rsyslog.service selinux-autorelabel-mark.service smartd.service sshd.service sssd.service syslog.service timedatex.service tuned.service vdo.service vsftpd.service webmin.service</pre>

5. FTP について

5.1. 標準設定内容とユーザ変更・追加方法

FTP について設定内容及びユーザの追加・変更手順を記載します。

ソフトウェア	vsftp
動作モード	パッシブモード データコネクションポート TCP/60000(min)～60005(max) (コントロールポートは標準 TCP/21)
ユーザ設定	FTP ユーザ/パスワード 初期設定では設定完了通知書の <u>ssh 接続ユーザ</u> を FTP 接続可能ユーザとして設定しています。 ホームディレクトリ: /var/www/html (ftp 接続時のホームディレクトリ) パーミッション: /var/www 配下はオーナー/グループを apache とし、 FTP ユーザは apache グループに所属
設定ファイル	① /etc/vsftpd/vsftpd.conf vsftpd サービスの設定ファイル ② /etc/vsftpd/chroot_list 内容は FTP 接続するユーザ ID のリスト ③ /etc/vsftpd/vsftpd_user_conf/xxxxxxxxx ファイル名 xxxxxxxx は FTP 接続ユーザ ID 内容として該当ユーザの ftp ホームディレクトリのパスを記載 FTP ユーザの追加やホームディレクトリの変更は、上記②や③のファイルを 追加・変更することで行います。
FTP クライアント ツールと設定	FFFTP、Filezilla、WinSCP 等、FTPS に対応したソフトをご利用ください。 プロトコル:FTP 暗号化: 明示的な TLS/SSL 暗号化 とします (FTPS(Explicit))

6. サーバ証明書について

本サービスで標準利用する Let's Encrypt 証明書について記述します。

個別の SSL サーバ証明書をご利用される場合は、別途設定内容を通知いたします。

6.1. 証明書一覧

サービス標準設定として、以下 3 つの証明書を取得し、サーバに設定しています。

No.	証明書の FQDN	使用ミドルウェア	備考
1	www.ドメイン名	Web(Apache)	
2	mail.ドメイン名	メール(Postfix/Dovecot)	
3	ホスト名.ドメイン名	FTP(vsftpd)、Webmin	

6.2. 証明書の自動更新

有効期間	Let's Encrypt 証明書の有効期限は取得後 90 日です。 自動更新機能により期限切れ前に更新を行います。
更新設定	ソフトウェアの標準動作として、有効期間終了の 30 日前になると 自動更新処理が実行されます。---snap 版 certbot の標準機能
更新と合わせて行う 処理	サービス標準設定として、証明書更新に合わせて各ミドルウェアサ ービスの reload 又は restart 処理を行います。 実行するスクリプトは以下のものです。 /etc/letsencrypt/renewal-hooks/post/restart_service.sh

以上